

生命の尊さについて 自ら考える態度を育てる道徳教育

～新聞記事に掲載されたドナーとなった両親の手記より～

筑波大学附属中学校
多田義男

考え議論する道徳の授業

- 道徳の時間を「特別な教科 道徳」（以下「道徳科」）として位置付けた改正は、「発達段階に応じ、答えが一つでない課題を一人一人の児童生徒が道徳的な問題として捉え向き合う」「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図るものとされている。（平成 29 年告示）
- 「生命の尊さ」を主題として教材選定を行い、臓器移植を通して生命について考え、現代的な課題の一つである「生命倫理」について生徒と教師が共に学び、考える教育実践について考察する。
- 教科を指導する場合は教科の免許状が必要になるが、道徳科においては特に免許状を有していなくても（実際には、道徳科の免許状の制度が整備されていないこともあり）指導する。

学校教育における生命の尊さについての扱い

- 学校教育において、子どもたちの生命が尊重されることや子どもたちに生命尊重の心を育むことは、最も重要な課題である。

教育基本法 第二条（教育の目標）

四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

学校教育法 第二十一条（義務教育の目標）

二 学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと

	小学校第1学年及び第2学年 (19)	小学校第3学年及び第4学年 (20)	小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)	
A 主として自分自身に関すること					
善悪の判断、自律、自由と責任	(1) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	(1) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主、自律、自由と責任
正直、誠実	(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に、過ちを正直に認め、正直に明らかな生活や行動を伸ばし、伸ばすこと。	(2) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	(2) 誠実に、明らかな生活や行動をすること。	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、自らを正しく見直し、節度を守り、規則に心掛け、安全で調和のある生活をする。	節度、節制
節度、節制	(3) 健康や安全に気を付け、過度な競争を大切にしない。身のまわりの整理をこまめにし、規則正しい生活をする。	(3) 健康や安全に気を付け、過度な競争を大切にしない。身のまわりの整理をこまめにし、規則正しい生活をする。	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心、個性の伸長
個性の伸長	(4) 自分の特徴に気付くこと。	(4) 自分の特徴に気付くこと。	(4) 高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力し、物事をやり抜くこと。	(4) 高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。	希望と勇気、克己と強い意志
希望と勇気、努力と強い意志	(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(5) 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	(5) 真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(5) 真理を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	真理の探究、創造
真理の探究					
B 主として人との関わりに関すること					
親切、思いやり	(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	思いやり、感謝
感謝	(7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7) 家族など生活を支えてくれた人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。	(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。	(8) 礼儀の意義を理解し、正しく適切な言動をとること。	礼儀
礼儀	(8) 挨拶、言葉遣い、身振りに心をこめて行うこと。	(8) 礼儀の大切さを知り、謙虚に接すること。	(9) 礼儀の大切さを知り、謙虚に接すること。	(9) 友情の尊厳を認め、信頼し、互いに支えあうこと。	友情、信頼
友情、信頼	(9) 友達と仲良くし、助け合うこと。	(9) 友達と互いに助け合い、信頼し、助け合うこと。	(10) 自分や他人の考えや意見を尊重すること。	(10) 自分や他人の考えや意見を尊重するとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	相互理解、寛容
相互理解、寛容					
C 主として集団や社会との関わりに関すること					
規則の尊重	(10) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	(11) 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る。	(12) 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。	(10) 法やきまりの意義を理解し、それらを守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	遵法精神、公德心
公正、公平、社会正義	(11) 自分の好き嫌いでとらわれないで接すること。	(12) 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	(13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	公正、公平、社会正義
勤労、公共の精神	(12) 働くことよきを知り、みんなのために働くこと。	(13) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。	(14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうこと。また、公共の場での役割を自覚し、公共の利益を守る。	(12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神を重んじて、よりよい社会の実現に努めること。	社会参画、公共の精神
家族愛、家庭生活の充実	(13) 家族を敬愛し、互いに助け合い、家族の役に立つこと。	(14) 家族を敬愛し、互いに助け合い、家族の役に立つこと。	(15) 父母、兄弟を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。	(13) 勤労の意義を理解し、将来の生活について責任感を持って勤労を社会に貢献すること。	勤労
よりよい学校生活、集団生活の充実	(14) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	(15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。	(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくること。また、様々な集団の中で自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	(14) 父母、兄弟を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	家族愛、家庭生活の充実
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。	(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくとともに、様々な集団の意義や集団の中で自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	よりよい学校生活、集団生活の充実
相互理解、寛容	(16) 他国の人々や文化に親しむこと。	(17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人として発展に寄与すること。	(16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
相互理解、寛容					
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること					
生命の尊さ	(17) 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	(18) 生命の尊さを知り、生命のあるものを大切にすること。	(19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえないものであることを理解し、生命を尊重すること。	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえない生命を尊重すること。	生命の尊さ
自然愛護	(18) 身近な自然環境に親しみ、自然の恵みを感じ取り、自然環境を大切にすること。	(19) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	(20) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	(20) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。また、人間を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	自然愛護
感動、畏敬の念	(19) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	(20) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。また、人間を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	感動、畏敬の念
よりよく生きる喜び			(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高さを生かすことにあることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。	よりよく生きる喜び

A 主として自分自身に関すること

B 主として人との関わりに関すること

C 主として集団や社会の関わりに関すること

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること		
(19) 生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	生命の尊さ
(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	自然愛護
(21) 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	感動、畏敬の念
(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。	よりよく生きる喜び

道徳科における「生命の尊さ」について

平成29年7月に告示された「中学校学習指導要領解説 特別な教科 道徳編」では主として生命や自然、崇高なものと関わりに関する事で「生命の尊さ」についての解説

(中学校)

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること

(小学校)

[第1学年及び第2学年]

生きることの素晴らしさを知り、生命を大切にすること。

[第3学年及び第4学年]

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

[第5学年及び第6学年]

生命が多く生命につながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること

道徳科における現代的な課題について

文部科学省学習指導要領解説 特別な教科 道徳編より

P103 「情報モラルと現代的な課題に関する指導」

(6) 生徒の発達段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること。また、例えば、科学技術の発展と生命倫理との関係や社会の持続可能な発展などの現代的課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てるよう努めること。なお、多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのないようにすること。

学習指導要領解説 (P104) に記載される 現代的な課題について

(2) 現代的な課題の扱い

道徳科の内容で扱う道徳的諸価値は、現代社会の様々な課題に直接関わっている。中学生には、こうした解決の難しい、答えの定まっていない問題や葛藤について理解を深め、多面的・多角的に考えることができる思考力が育ってきている。現代社会を生きる上での課題を扱う場合には、問題解決的な学習を行ったり討論を深めたりするなどの指導方法を工夫し、課題を自分との関係で捉え、その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。例えば、食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育など、学校の特色を生かして取り組んでいる教育課題については、（省略）

現代的な課題という視点から 臓器移植を通じた道德授業の可能性

科学技術の発展

人権

医学の進歩

臓器移植

持続可能な社会

自己決定権

生命の尊さ



文部科学省学習指導要領（平成29年告示）解説

特別な教科 道徳編より

P103 「情報モラルと現代的な課題に関する指導」

(2) 現代的な課題の扱い

- ・ 多様な見方、考え方があることを理解
- ・ 問題を多面的、多角的視点から考えさせる指導法の工夫
- ・ 課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てる



臓器移植をテーマにした 道徳科教材について

～新聞記事に掲載されたドナーとなった両親の手記～

- 日本臓器移植ネットワークが2016年2月25日公表
- 2016年2月26日各社新聞記事として掲載
- 東海地方の病院でインフルエンザ脳症で脳死と判定された女兒の両親の手記
- 父親は、悩んだ末に臓器提供を決心したといい、女兒には「もしいやだったらゴメンね」と語りかけ、その判断が正しいものであったか判断できない本人の代わりに下した決断に苦悩
- 母親は「お母さんをもう一度抱きしめて笑顔を見せて」と娘を失った思いをにじませている。
- 生徒には両親の手記を通し、「生命の尊さ」や「死」について自ら考える態度を育てることが期待できると考えた

「新聞記事を用いた臓器移植」 道徳教材 について考えたとき

家族愛

感謝

生命尊重

思いやり

- 臓器移植の是非を問う内容ではない
- 子どもを思う親の深い愛情
- 生命の大切さ 自分の生きている意味
- 現実を理解し受け入れていかなければならない
- ある日突然起きてしまった出来事は、いつ自分が同じような立場になるか考えさせる内容



生徒の授業記録から

中学校3年生のワークシートより
2020年1月下旬に実践



生徒と共に考える発問

主題：生命の尊さについて考える

道徳内容項目：生命の尊さ D 19

教材：2016年2月26日新聞記事

- ①お父さんのAちゃんの「繋いだその命」という思いについて
- ②お母さんの「今でも会って抱きしめたい」と綴ったメッセージについて
- ③「生きる」ということについて



臓器移植をめぐる2つの立場

一つの事象を二つの立場からそれぞれ考えさせ話し合う

廊下側の2人

臓器移植を提供される家族

窓側の2人

提供することになった家族

どちらの立場になるか教師の指名による

それぞれどのような思いでいるのか
考え話し合ってください



ボードを使用し話し合った内容の発表



窓側の2人

廊下側の2人



提供することになった家族

授業風景画像
平成28年度
筑波大学附属中学校
研究協議会より



提供される家族の思い

- ・ 助かる。ありがたし。
- ・ 死を喜ぶことになっていく。
- ・ (間接的に殺すことになっていく)
- ・ 命を預け"る。体に合うかもしれない
- ・ 提供してこい"た分幸せに生きていこう
- ・ 二の先生にお願いする希望。

臓器移植を提供される家族

生きる

提供する家族(Aちゃん)の思い

- ・ 子供への命を自ら運ぶことになっていく。
- ・ 子供をまっすぐに育てたい。でも、今は、
"こ"い"い"。
- ・ 提供してこい"た希望に
Aちゃんにとってどうしていいのか
わからず。
- ・ 死ぬ時を一緒に迎えること
になっていく。
- ・ 納得していき。少しでも他人の役に
なりたい。
- ・ 死ぬ。他人に役立って。打つ。"ん"。
- ・ 痛い思いをさせていく。自分の優先は

提供することになった家族

繋いだ命

色々考えにもなる。やはり。
Aちゃんはどうして生きてい
 たらいいか、毛を毛で
 いるか。Aちゃん命を繋いで
 命をしっかりと大切に生きて
 ほしい。

Aちゃんはお子"に生きて
 ほしい。わが子に
 Aちゃんの子で生きてもらう。
他人を助けること
 Aちゃん命は繋いだ。

生きるとはどういうことだろう
(自分のこととして考える)

生きる

色んな形がある。 死んでしまっても、誰かの一部になったり
残ったたりするかも"。"

「生きる」「生かせる」。

死んでしまっても「命」はっかいこく"。

生かすと死ぬは紙一重。

想いはその人じゃない誰かの中で生かっかける。自分のためにことをする。



生きる

誰かの記憶に死んだ人が残されている限り、
命としては生きていなくても、誰かの中で生きている。
(死んだ人の想いは誰かの心の中で残され
生き続けている)

生きる

役わりを果たすこと
責任

「生きがい」という選択肢
→ 自分の意志で生きている
思いがどこかで
生きがいの

つなぐ(次世代へ)、存在を覚えてもらって
自分のしたいこととやる。
人それぞれ(意味)を見つけたらいい、誰かの記憶に残る

生徒たちは今まで
以上に「生命」に
ついて深く考える
授業となった



臓器移植をテーマにした 道徳科での生徒の学び

生きることが
責任を果たすこと

生命の尊さ
大切さ

臓器移植について

自分のこととして

現代社会について
の疑問、課題

未来への希望



道徳の授業数週間後 富山大学附属病院 種市尋宙先生による授業



臓器移植に関するお話をされると伺っていたので、その素晴らしさだと思っていた。しかし、あげたい、あげたくない、という権利があり臓器提供は正義ではないという言葉が私の偏見をとっていただきました。

移植医療のことをしっかりと学習せず、移植という道を知らずに終わることは、間違いだと思います。だから私は、自分の親に縁起が悪いなど言われても自分の意思を示しておきたいと思うようになりました。本日はありがとうございました。

(中学校3年女子Aさん)

2020年2月14日 (金)

臓器移植を通して命について考える機会をいただきました

当時中学3年生男子生徒(現高校2年)

～当時を振り返りインタビュー調査～

授業後、自分の進路で「小児医療に関わりたい」と話していた

- 中学生だからちゃんとは話せないかもしれないけど、自分や家族のとで悩みを抱え、自分自身も色々あったので、よい機会として覚えている授業だった。
- 高校に進学すると、保健体育や倫理の授業で様々なことを考えずっと生命や医療について考えることが今も続いている。
- 授業だけでなく、3年生のときに行った企画はとても有意義で、卒業のせまるあの時期だから大切だと思う
- 授業を受けた後、家族と自分の意思表示について話したことを覚えている

2021年5月31日（T君への電話によるインタビュー）

カリキュラムマネジメントの重要性

各教科の教育課程

- ・理科 「生物の体のつくりとはたらき」
- ・保健体育科 「心身の機能の発達と心の健康」
- ・社会科 公民 「自己決定権」臓器提供について学習」
- ・技術・家庭科(家庭分野) 「家族・家庭について」

臓器移植をテーマにした道徳科の授業

中学校 3 年生 1 月下旬に実践

移植医療に携わる医療現場の医師による講演

(JOTのご尽力によりゲストティーチャーによる出前授業)

道徳の教科化に伴い臓器移植が教材として取り上げられている例

(中学校 2019～)

○中学校道徳教科書一覧

	出版社名	教科書タイトル	学年	教材名	主な内容
1	学校図書 令和3年から休刊中	輝け 未来 中学校道徳	2	大きな木	(物語調) 兄の死より提供することになった苦悩
2	教育出版	中学道徳 とびだそう未来へ	3	家族の思いと 意思表示カード	(物語調) 姉の死で苦悩する父母
3	日本文教出版	中学道徳 あすを生きる	3	臓器ドナー	臓器移植をめぐる2つの立場
4	廣済堂あかつき	中学生の道徳 自分をのばす	3	ドナー	臓器移植をめぐる2つの立場
5	学研教育みらい	中学生の道徳 未来への扉	3	あなたの命は誰のもの	移植医療を6人の立場から コメント掲載
6	光村図書	中学道徳 きみがいちばん ひかるとき	2	つながる命	新聞記事として掲載
7	日本教科書	生き方を創造する	3	臓器移植をめぐる命と心	(随筆調) 移植医療に対する考え方

* 東京書籍は、記載なし



臓器移植の是非を
聞いているのでは

臓器移植のことを
そもそも理解して
いない、知らない

どのように授業を
すれば
よいかわからない

学校現場教師の声として 不安な思い

- ・ 臓器移植について教えるのでない
- ・ 必要な資料はWebで入手可能
- ・ 様々なメディアで取り上げられている



道徳科で臓器移植教材として扱う課題

- 臓器移植についての意思表示や理解をするための指導するのではなく、教材（臓器移植教材）を通して「生命の尊さ」「家族愛」「思いやり・感謝」等が授業の主題であるという教師側の認識をもつ
- 教育課程でどのように位置づけられているか。
（特に、中高を意識したカリキュラムマネジメント）
- 現行の教科書では3年間で1度しか扱わないため、教科書に掲載される教材としての吟味が重要である。
- 学校と医療現場など移植医療に携わる方との連携・協力